

理事会議事録

日　時：2005年3月28日(月)12:30--14:20

場　所：明星大学日野キャンパス23号館2F会議室1

出席者：祖父江、井上、黒田、花岡、杉山、北本、関井、蜂巢、和田、百瀬、田、成相、馬場、富田、浅田

欠席者：なし

他に、東條事務長が出席した。

議　長：祖父江義明

署名人：杉山　直、花岡庸一郎

報告

- 前回議事録の確認(資料1)

花岡理事より前回(2005年1月8日)の理事会議事録が報告され、原案通り承認された。
- 当年会について

百瀬理事より開催中の年会について、また田理事より27日(日)の公開講演会について報告があった。公開講演会は参加者151名、同日の記者会見は9社参加であった。年会は581件講演が予定されており(口頭335件、ポスター246件)、またジュニアセッションは35件の講演が予定されている。今回は企画セッション2件、特別セッション2件を含めて開催しており、順調である。
- 教育問題懇談会報告

祖父江理事長より、昨年7月の評議員会において、初等・中等理科教育に関して危機感を持ち、改善の為の方策の議論をきっかけに発足した教育問題懇談会の最近の活動について報告がされた。1月9日、2月27日にはそれぞれ高等学校における地学・物理教育、小中学校での天文教育に関するシンポジウムを開催しており、また年会では3月28日5時よりの天文教育フォーラムを天文教育普及研究会と共催する。
- 創立100周年記念WG報告

杉山理事より現在検討している事業のうち以下について報告があった。

記念切手の発行

正式決定は来年度の郵政公社の委員会でなされるので、そこで認められるよう若松前副理事長を中心に運動中である。3月開催の委員会にも検討の参考として資料を提出済みである。なお、関連分野の記念切手ということでは、国立天文台が先に記念切手発行の要請をするとの情報もあった。

学会100年史編纂

2月17日に尾崎元理事長、実務担当理事などを中心とした予備的な会合を行い、学会として小委員会を設置することを念頭において編纂委員メンバーを内定した。3月30日年会中に委員会を開催予定である。天文月報100巻記念　月報編集委員会で議論中である。
- その他
 - 教育委員会関連の報告

田理事より、講師派遣データベースについて4月から運用開始を予定しておりそれに向けて準備中である、テンネットで宣伝をしたいと考えている、との報告があった。実際に講師として適当な人材が十分に登録されているのか、という議論があった。理事・評議員には積極的に講師としての登録をお願いすることとなった。
 - 天文月報についての報告

和田理事より、天文月報記事について、印刷会社の持っているpdfファイルは学会で買い取ること、天文月報のウェブ上での公開は新しいものについては出版後1年以内はパスワードをつけて公開、その後は全面公開としたいこと、の報告があった。ただし以前のものはネットワーク上での公開を前提とした著作権上の処理が行われていないため、公開することをテンネットで周知するなどして著作権上問題が起こらないようにする。
 - IAU地域会議の天文教育・普及セッションのための募金について

IAU地域会議の天文教育・普及セッションの額重座長より、教育関係者や高校生などが参加できるよう旅費の寄付を月報上で募りたいとの要望が出されている件について、花岡理事より報告された。締め切りの関係で月報にチラシ投げ込みという形になるが、これについては承認した。
 - 100周年記念出版事業について

祖父江理事長より進捗の報告がされた。3月27日に第4回委員会を行い、最終的な章立てがほぼ固まり、全体構成は16巻から17巻に変更することになった。執筆候補者について議論を行い、4月には執筆の打診をする。
 - 次回以降の年会について

北海道大学がホストとなる2005年秋季年会について、馬場理事より、大学外での開催のため開催費が高くなるので、一部助成を受けることになった旨報告があった。

和歌山大学がホストとなる2006年春季年会について、富田理事より会場を現在選定中であること、和歌山市等からの助成を受けられるよう運動中であること、の報告があった。

九州国際大学がホストとなる2006年秋季年会について、浅田理事より9月19日(火)-21日(木)に開催、18日(月祝)に公開講演会を行うこととして準備中である旨報告があった。

議 題

- 新入会員の承認(資料2)

花岡理事より資料に基づき新会員の報告があり、入会が承認された。あわせて、退会者の報告があった。なお、移籍について、準会員から正会員への移籍は理事会における承認が必要であるが、正会員から準会員への移籍は承認不要ではないかとの議論があり、今後移籍の承認についてはそのようにする旨申し合わせた。
- 日本天文学会100年史編纂委員会内規の制定など(資料3)

杉山理事より、天文学会創立100周年記念事業のひとつとして100年史の編纂を行うこととなっているので、このための委員会を学会の小委員会として組織し、そのための内規を制定したい旨の提案があった。内規案については原案通り評議員会に諮ることとした。また、委嘱を予定している編纂委員会委員についても紹介があり、承認された。

これとともに、年会実行委員・天文教育委員であった加藤万里子氏が退会したため両委員会の委員に欠員が生じたことについて報告があった。天文教育委員会については、最近教育関連の会合の頻度が高くなっている一方で田委員長が岐阜県に異動となって頻繁な会議出席が困難になっている事情もあり、東京近辺在住の委員を新たにお願いして欠員の補充するというこで、山縣氏を新たに委員とすることが提案され、承認された。年会実行委員会についても必要に応じて補充を今後検討する。
- 年会実行委員会から(資料4)

百瀬理事より、予稿締切日と企画セッションのルールに関して提案があった。

予稿締切日については、講演数の増加に伴い予稿締め切りから月報用プログラム原稿完成までのスケジュールが極めてきつくなっているため、予稿の質の低下が懸念材料ではあるものの締切日を1～2週間早めたい旨の提案があった。月報にプログラムを載せる必要性が本当にあるのか、月報のプログラムは便利であるばかりでなく公式記録であり必要である、というような議論があったが、十分な議論は今後引き続き行うこととし、期日の近い今年秋の年会については1週間前倒しの日程を承認した。

企画セッションについては原則1日の枠で収まるものとするを確認し、より細かい見直しについては次回審議することとなった。
- その他
 - 天文オリンピックについて(資料5)

杉山理事より、科学オリンピックのひとつとして開催されている天文オリンピックへの参加が検討できないか文部科学省より問い合わせがあり、それを受けて予備検討会を開催した経緯について説明があり、天文オリンピック自体詳細が不明であるので科学技術振興事業団の援助のもとにオブザーバーを派遣して状況を把握すること、検討ワーキンググループを設置すること、が提案された。オブザーバー参加については認めることとし今後人選を行い、検討WGについては次回以降さらに検討する、とした。
 - 男女共同参画学協会への対応について(資料6)

祖父江理事長より、男女共同参画学協会の担当者を決めたい旨提案があった。最近、男女共同参画学協会が日本学術会議女性会員の選出についての要望書を出すことになり天文学会にも有志として要望書に加わるよう依頼があったが、天文学会として議論をするなど対応をしている間がないため保留とした、ということがあった。日本天文学会は男女共同参画学協会に参加しており、現在祖父江理事長が窓口となっているが、今回の要望書のような動きに対応するのは容易ではないため、新たに他の担当者を決めたいとの趣旨である。理事会席上では決するまではいたらなかったので、今後候補を探して依頼することとなった。
 - 黒字財政と諸事業についての会計からの報告

関井理事より、前回の理事会で、PASJや天文月報の出版費用が減少してきているため会費値下げを検討していると提案したことについて、改めて検討を行っている会員へ還元する方法や新たな事業のいろいろな案についての説明があった。さらに今後各案について必要に応じて金額まで考慮した提案を行い、検討を続けていく。項目によっては次回7月の理事会で決定すれば来年度予算案に盛り込む。

2005年4月21日

議　長　祖父江義明

署名人　杉山　直

署名人　花岡庸一郎